様式３

会　　議　　録

<table>
<tr><td colspan="2">会議名
（審議会等名）</td><td colspan="3">第８回新相模原市観光振興計画推進会議</td></tr>
<tr><td colspan="2">事務局
（担当課）</td><td colspan="3">経済部商業観光課　電話０４２－７６９－８２３６（直通）</td></tr>
<tr><td colspan="2">開催日時</td><td colspan="3">平成２４年１１月２日（金）　午後２時～４時</td></tr>
<tr><td colspan="2">開催場所</td><td colspan="3">相模原市立環境情報センター　２階　学習室</td></tr>
<tr><td rowspan="3">出席者</td><td>委　員</td><td colspan="3">７人</td></tr>
<tr><td>その他</td><td colspan="3">１人</td></tr>
<tr><td>事務局</td><td colspan="3">１２人（商業観光課長、他１１人）</td></tr>
<tr><td colspan="2">公開の可否</td><td>■可　□不可　□一部不可</td><td>傍聴者数</td><td>０人</td></tr>
<tr><td colspan="2">公開不可・一部不可の場合は、その理由</td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td colspan="2">会議次第</td><td colspan="3">１　開会
２　議題
議題１　第７回新相模原市観光振興計画推進会議の結果について
議題２　新相模原市観光振興計画の中間見直しについて
議題３　新相模原市観光振興計画の推進について
１　平成24年度の事業・取組みについて
２　地域別計画の推進状況について
３　その他
４　閉会</td></tr>
</table>

審　議　経　過

主な内容は次のとおり。（○は委員の発言、●は事務局の発言）

1　開会

内藤会長あいさつ

2　議題

議題１　第７回新相模原市観光振興計画推進会議の結果について

議題２　新相模原市観光振興計画の中間見直しについて

議題３　新相模原市観光振興計画の推進について

1　平成24年度の事業・取組みについて

2　地域別計画の推進状況について

議題１から３について、第８回新相模原市観光振興計画推進会議資料により事務局から一括して説明を行った。また、相模原市の各観光主管課長から観光振興の取組みについて、次のとおり補足説明等がなされた。

≪補足説明等≫

『相模原市の取組み』相模原市商業観光課

● イベントに関しては、4月の市民桜まつりから始まり、10月まで続いた5大観光行事や地域活性化イベントが終了し、この11月には、先に説明したシティセールスイベントである「スイーツフェスティバル」「潤水都市　さがみはらフェスタ」が開催される。両イベントともに、本市のブランド戦略に基づくパイロット事業として発信するイメージのひとつである「宇宙」をテーマに開催するものである。

● 今回の「さがみはらフェスタ」は、銀河連邦友好交流25周年の記念事業として開催する側面もある。イベントを盛り上げるため、ＪＡＸＡとの連携を図りながら「宇宙」を色濃く発信するとともに、全21店舗の参加が予定されている「さがみはらぁ麺グランプリ」、各地からのゆるキャラを誘致する「ゆるキャラ大集合！」、同時期に市民ギャラリーにて開催されている「はやぶさの故郷さがみはら×松本零士の世界展」との連携など、盛りだくさんの企画を用意している。

● 地域別計画の推進としては、城山経済観光課との連携のもと推進を支援している大島・向原・小倉・葉山島観光振興推進協議会の活動が、計画策定から2年目となる今年度より本格化し、この10月までに3事業を実施している状況であり、いずれの事業も好評のもと終了している。

● 平成23年度末に作成した「相模川　花と昔めぐりマップ」についても好評で、5,000部作成したものが、イベントや施設への配架を通じて在庫がほとんどない状況で

ある。

『城山地域の取組み』相模原市城山経済観光課

● 4 月に開催の「津久井湖さくらまつり」を皮切りに、6 月の「城北里山まつり」、8 月の「小倉橋灯ろう流し」、10 月には今年で 36 回を迎える「城山もみじまつり」が開催され、盛況のもと終了した。
● 地域別計画の推進としては、商業観光課とともに大島・向原・小倉・葉山島観光振興推進協議会の活動を支援している。取り分け、6 月から 10 月にかけの全 5 回の開催となる「葉山島・みんなでお米づくり体験」が好評で、最終回となる「第 5 回・餅つき体験」は、地元の湘南みらい実行委員会が主催する「葉山島・秋の収穫祭」と合同開催する形でかなりの賑わいを見せた。
● その他、11 月には、城山商工会の主催により川尻八幡宮にて「鎮守の森手づくり市」を、また、12 月には、津久井湖城山公園・水の苑地にて、津久井青年会議所が設立 30 周年を契機に花火大会を開催する。
● 今後、城山地域としては、小松・城北といった里山、城山湖周辺の散策路、財産区内にある梅園といった観光資源を有機的に結びつけながら、地域の観光振興を図っていきたい。
● 既に城山湖周辺から高尾を結ぶ散策路が整備済であるため、年間 260 万人の集客がある高尾山から、今後どのように誘客を図れるかを地域住民、行政で研究していく予定である。

『津久井地域の取組み』相模原市津久井経済観光課

●春の「津久井湖さくらまつり」に始まり、10 月には「津久井やまびこまつり」、11 月に「津久井湖観光センターまつり」があり、様々なイベントが開催されている。取り分け、今回の「津久井やまびこまつり」では、津久井城が北条氏の出城であったことに因み、新たな取り組みとして、小田原で開催の北条五代まつりの参加者を誘致するなど、連携を図った。
●「ふらっと津久井魅力“彩”発見！」は、津久井商工会と津久井観光協会が協力して開催する日帰り体験ツアーで、非常に好評である。この事業については、神奈川県も注目しており、県北における旅行商品として展開に向けての動きもあるとのことで、期待している。
●地域別計画の推進としては、今年度、津久井地域で４つ目となる津久井湖周辺における計画の策定が進められている。検討の中では、城山と高尾をつないだような、湖を一周する遊歩道を整備するといった提案も出ている。
●既存の青根、青野原、津久井中央の各地域においても、地域別計画の推進が図られているところだが、津久井中央地域については、三太物語の発祥の地であることか

ら、看板によるPRや、物語に因んだ「紅葉」の植栽が検討されている。

●市としては、地域別計画の推進に伴い、観光トイレといった施設的な面を保管できるよう検討を進めている。

『相模湖地域の取組み』相模原市相模湖経済観光課

● 昨年度は、震災の影響により、多くのイベントを自粛、縮小してきたところだが、今年度は、被災地に元気を送ろうと「被災地復興」の冠を付けた中で、計画したイベントはすべて実施することとしている。

● 4月の「相模湖やまなみ祭」を皮切りに、7月の「相模湖ダム祭」、8月の「さがみ湖湖上祭花火大会」が開催され、この11月には「甲州街道小原宿本陣祭」が盛大に開催される予定である。

● ピーク時には340万人という観光客数が、現在では110万人となっている状況である。その7割近くである65万人が、地域内の民間テーマパークの来場者であることから、民間テーマパークの催しとの連携を図りながら、来場者により長く地域内に滞留してもらうための策を講じている。

● 具体的な策として、１１月９日から民間テーマパークにより実施されるイルミネーション事業にあわせて、地域内でもイルミネーション事業を展開することにより、地域全体を「光のまち」として演出する予定である。

● 地域別計画の推進としては、小原宿活性化計画の取組みが５年目を迎え、熟成してきたところである。

●11月1日付で、景観法に基づき、小原宿本陣が本市の景観重要建造物の第1号として指定された。今後、地域の景観づくりの核とされることとなる。

『藤野地域の取組み』相模原市藤野経済観光課

●「ふじの自産自消を楽しむ会」事業については、地域特性を活かしたすばらしい事業であるが、現在、会員数が少ない状況であるため、一層の事業周知を図り、会員数の拡大を図っていきたいと考えている。

●平成23年度の事業として、従来、相模湖エリアで運行していた遊覧船を藤野エリアまでつなぐことにより、点と点を線で結びつけることができた。このような結びつけの一環として、今年度は春に、「藤野やまなみ温泉」を運営する市都市整備公社が、地域のすばらしい観光資源である同温泉を市内の他地域、取り分け旧市エリアの市民に知って、来てもらうバスツアーを実施しており、11月にも同様のツアーを実施する予定である。

●地域別計画の推進としては、市の上位計画に基づくものではないが、佐野川和田地区において、地域住民が主体的かつ計画的に実施している事例があり、事業の実施を通じて、平成22年度は4千人、平成23年度は2千人の観光誘客があった。この

取組みについては、地域の観光資源とともに、地域住民の資質の高さの表れであると考える。また、いずれは、地域別計画として位置付け、より本格的な事業展開に結び付けていきたい。

≪主な意見等≫

各委員からの主な意見及び質疑応答は、次のとおり。

○神奈川県として、今年度より推進している「水のさと　かながわ」づくりの一環として、「水の観光」事業を重点的に進めているところだが、相模原市については「水」に関わる観光資源が多く、また、今年度開催のキャンペーン等、関係事業においても相模原市内からの出展、出演が目を引くところである。

○新相模原市観光振興計画の中間見直しの中で触れられている「観光インバウンド」の取組として、神奈川県では、特に海外からの教育旅行の誘致に取り組んでいるが、「学校間の交流」と「体験事業」が重要な要素と考えている。この点を考えると、津久井エリアにおける自然や文化を活用した体験事業の質は高く、誘致の有効な材料となる可能性を感じる。

○また、「観光インバウンド」の取組は、一都市だけで進めることが困難であるため、神奈川県では、その推進に取り組む協議会を設置し、研究を進めている。

○従来の教育旅行においては、旅館、ホテルに宿泊し、観光するというものであったが、最近では総合的な学習を含めて、民家に泊まり、農業であったり、漁業であったり、その家の生活を体験することが流行にもなっている。

○このような傾向により、首都圏の東京や横浜における観るだけの観光では、ニーズに応えられない状況にあり、津久井エリアで実施されているような体験事業が求められる流れもある。

○加えて、地域の児童、生徒とともに、その体験事業に参加できるようであれば、交流の効果もあり、その魅力は一層高まることとなる。ただし、来訪する児童・生徒数に対し、現地の学校の規模が小さく、児童・生徒数も少ないため、現実としてはかみ合わないことが多く、通年で継続的に対応するのも困難であるという課題もある。

○教育旅行の誘致における困難はあるが、先の状況により、有名な観光資源が無くても観光客を呼べるということは言える。

○津久井観光協会が運営している津久井観光センターでは、土産品等の売上が落ちてきている状況である。これは、圏央道の高尾インターチェンジの開通に伴い、交通の流れが変わったことに起因するものと考えている。

○今後、城山地域にもインターチェンジが開通する中で、以後、交通の環境がどのよ

うに変わるのか、不安な要素が多い。

○相模湖地域において、昔から観光の動きを見てきたが、難しさを感じる。
○今年度より、相模湖湖畔における地域別計画が推進されているが、この取組により、閉塞感を感じていた観光事業者の意識が変わり、高まってきているように感じる。これは、市が介入し、観光事業者に目を向けることにより得られた効果であると考えている。引き続き、観光分野に市が介入し、観光事業者に対し、遠慮なく意見をぶつけてもらい、両者で議論していくことが、観光の活性化につながる。

○地域別計画の推進について、津久井地域の事例が多く、旧市域の取組がおろそかでないかと感じるが、市はどのような考えか。
●新相模原市観光振興計画は、市が策定、推進する行政計画であるが、地域別計画については、地域の資源を把握している住民が主導で策定、推進していただく民間計画であるため、市で取り組むだけでは進まない。市としては、引き続き、地域住民の観光振興に対する機運の高まりに応じた働きかけや、支援に取り組んでいきたい。

○商業観光課、城山経済観光課より報告のあった、大島・向原・小倉・葉山島地域観光振興推進協議会に参画しているが、同様に報告のあった「葉山島・みんなでお米づくり体験」は大変好評で、アンケートをとった結果、90%以上の参加者が満足していることがわかった。
○津久井在来大豆は、本市を代表する特産物の１つだが、藤野地域、津久井地域の韮尾根でも大豆を活用した体験事業が活発に行われている状況である。このような事業を観光資源として活用することが、非常に有効である。

○本日、農林水産省主催の「フード・アクションニッポン・アワード 2012」において、津久井在来大豆の加工食品が、販売促進・消費促進部門に入賞した。今後、各種イベントへ出店する中で、引き続き、津久井在来大豆の普及に努めていきたい。
○来年３月、相模大野にオープンするアンテナショップでは、ＪＡＸＡ関連の商品を取り扱うのか。また、相原高校が育成している宇宙大豆を使用した宇宙食の開発など、「宇宙」をテーマとした連携が図られるべきと考える。
●現在、ＪＡＸＡ、相原高校に対し、アンテナショップへの出店を要請しているところであるが、最終的にどの程度の商品を取り扱えるかは見えていない。

○藤野地域には、文部科学省による自然体験活動指導者として認定を受けた者が 30 名程度所在し、救命救急法や心肺蘇生法の知識、技術も身に付けており、子どもの

宿泊体験を円滑に行う準備ができている。今後、この指導者をもっと増やし、学校の宿泊も受入れていく予定である。

○教育旅行のイメージとして、相当の大人数を受け入れる必要があると思われがちだが、台湾からの教育旅行の受入事例を確認すると、100 名にも満たない状況で、30 名から 40 名程度の受入で済んでいる。受入れ可能な人数について、気にし過ぎる必要はない。

○新相模原市観光振興計画の中間見直しにおける視点として、観光を取り巻く環境の変化への対応があげられている。一般的な観光の動向としては、「体験」「学習」「交流」の３点を含む事業がトレンドとなっている。報告でもあったとおり、市内では地域別計画が推進されているが、その内容は、まさにこの３要素を含んだものが多いと感じている。

○この３点を含んだ事業を展開していく中で、地域の観光資源を適切かつ円滑に案内することが重要なことから、今後、地域ガイドの育成をしっかり進めていただきたいと考える。

○住んでいる人、訪れる人が事業を通じて交流が進むことにより、双方が満足することにより、次の観光事業につながっていく。昔のように、単に観光事業者だけが観光客をもてなす時代ではなくなってきている。

３　その他

事務局から、相模原の名産品を取りまとめた一覧について説明を行った。

また、星委員より、今年度に実施された「藤野の歴史的建造物めぐり」の概要について報告があった。主な、意見等は次のとおり。

○「藤野の歴史的建造物めぐり」は、今年度、市との協働事業として実施したもので、参加者から好評であった。「地元の人の話を聞けたことが良かった」との感想が多くあったことが印象的である。

○「藤野の歴史的建造物めぐり」は、好評であったとのことだが、今後、継続して実施していく上では、一度に案内する人数を 20 人以下に絞り、一人ひとりにきめ細かく案内できるよう、配慮すべきである。その他、マイク等の放送機材にも不具合があったり、声が小さいなど、参加者が不快に感じる要素をなくす配慮が必要である。

○ 相模原市に多くの名産品があることはわかったが、今後、ＰＲしていくものを絞り込んでいくことも必要ではないか。

≪意見等のまとめ≫

● 本日の推進会議における委員からの意見などについてまとめると次のとおり。

・「観光インバウンド」を推進するにあたり、一都市だけで進めるのは困難なことから、近隣市町村との連携が必要である。

・近年の教育旅行において、「体験」「交流」という要素が求められていることから、誘致を図る場合には、その要素を充実させる必要がある。

・近年、求められている観光事業の主流は、「体験」「学習」「交流」を含んだものである。また、この要素を提供できる観光ガイドの養成が必要である。

・新相模原市観光振興計画の見直しにあたっては、「おもてなし」を通じて、地域と観光客の双方に満足が生まれる、という観点も意識することが必要である。

・圏央道のインターチェンジの開通は、観光施設へ大きく影響を与える

・観光の推進においては、観光事業者に任せるだけでなく、行政も積極的に関わることが有効である。

・津久井在来大豆については、観光事業での取り扱い、相原高校との連携による発展など、様々な工夫により、観光資源としての活用が想定できる。

・ＪＡＸＡについては、相模原市の知名度を非常に上げている。今後、相原高校の「宇宙大豆」との連携を図るなど、工夫を凝らしながら観光振興を進めていくことが有効である。

・相模原市の名産品について、絞込み、統一を図り、アンテナショップでの販売と発信に活用されたい。

４　閉会

永井副会長あいさつ

新相模原市観光振興計画推進会議委員出欠席名簿

区　　分	氏　　名	所属団体等		備考	出欠席
		名称	役職等		
学識経験者・専門家	内藤　錦樹	桜美林大学	名誉教授	会長	出席
		観光振興アドバイザー			
市民・NPO	梅原　邦彦	湘南みらい実行委員会	副会長 兼企画部長		出席
	星　　和美	ふじの里山くらぶ	理事		出席
関連団体	岡本　政広	相模原市観光協会 （豊国屋）	会員 （代表）		出席
	秋本　昭一	相模原市観光協会 （津久井観光協会）	副会長 （会長）	吉野賢治氏 代理出席	欠席
	永井　宏一	津久井地域商工会連絡協議会 （相模湖商工会）	（理事）	副会長	出席
民間事業者	山田　新一	神奈川中央交通㈱ 相模原営業所	所長		欠席
	向田　　淳	㈱ＪＴＢ法人東京 法人営業町田支店	支店長		出席
行政関係者	鈴木真由美	神奈川県商工労働局 産業部観光課	副課長		出席